HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治十年代の内國貿易(一)
Author(s)	山口, 和雄
Citation	北海道大學　經濟學研究, 2, 23-57
Issue Date	1952
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30982
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_P23-57.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

明治十年代の内國貿易(一)

山口和雄

序
一、東北區
二、北陸區
三、山陰區（以上本號）
四、山陽區
五、四國區
六、近畿區
七、東海區
八、關東區
九、九州區
一〇、北海道
結

序

德川時代後期から明治初年にかけ、商品の流通圏が領國的・地方的な範圍をこえて全國的規模にまで擴大するにい

たつたことについては、すでに多くの史家の指摘せるところである。しからばその實體如何というに、その詳細は必ずしも明らかになつていない。もちろん、すでに、部分的ではあるが、若干の統計資料もあげられて一應のことはあきらかであるが、全國的調査にもとづく詳細な考察は全くないのである。

本稿は明治十年代の調査資料によつてこの種の研究を行うとするものである。なぜ明治十年代をえらんだかといえば、この時期になつてはじめて各府縣における主要港灣の輸出入の狀態を全國にわたりあきらかにすることができるからである。陸上交易の狀態はあきらかでないが、鐵道がほとんど發達していなかつた當時にあつては、貨物の主要部分が海上輸送に依存していたと考えられる。かゝる點からみて、內國貿易の狀態をあきらかにすることは、當時としては、商品流通の狀態を或程度あきらかにすることとなるのである。

ところで、明治十年代の內國貿易に關する調査資料としてまずあげられるのは、開拓使によつて明治十二年から十五年にかけ公刊された「二府四縣采覽報文」、「東北諸港報告書」、「西南諸港報告書」の三報告書である。これらはいづれも開拓使の役人が長官の命をうけて東北、北陸、西南の主要な港に出張し、各港における北海道物産の出入の狀態を詳細に調査の上復命したものであるが、同時にこれらは、單に北海道物産の輸出入のみでなく、各港における全輸出入の狀態をもあわせ調査し、それぞれ詳細な統計資料をも報告しておる。「二府四縣采覽報文」は、京都・大阪・滋賀・石川（今の富山福井をふくむ）・島根（今の鳥取をふくむ）山口の二府四縣につき、「東北諸港報告書」は青森・岩手・宮城・秋田・山形・新潟・茨城の七縣につき、「西南諸港報告書」は大阪・兵庫・德島（今の香川縣をふくむ）・愛媛（今の香川縣をふくむ）・岡山・廣島・山口・福岡・長崎・福井の十縣につき夫々調査せるものである。たゞ、東海・關東の兩地區及び九州の一部については、北海道との關係が比較的稀薄だつたためか、調査員も派遣されず從つて報告書も作成されていない。

いま一つ重要な調査資料は府縣統計書である。いうまでもなく府縣統計書は、帝國統計年鑑の基礎となる各府縣の統計書であつて、各府縣とも明治十二年乃至十五年頃から公刊され、その中には種々貴重な資料がふくまれておるが、その一つに各港輸出入調査がある。各府縣下の主要港灣につき輸出入額、輸出入品、出入船舶などを記した統計資料で、早い縣では明治十二三年から、おそいところでも十五六年から開始され、明治十八九年頃まで調査が繼續したが、それ以後はなくなつておる。もつとも、この種の調査がすべての府縣で行われたのではなく、中には行わぬ縣も若干存在したが、大多數の府縣が行つておるのであつて、前の開拓使の三報告書とならんで內國貿易に關する貴重な資料である。なお、第二回、第三回、第四回帝國統計年鑑（明治十四年、十五年、十六年）には府縣統計書の結果が極めて要約された形で、「港灣河岸場出入船舶及物品價額」として載つておる。府縣統計書には欠除し、この方に載つておるものもあり、若干の參考となる。

開拓使の三報告書も明治十年代の各府縣の統計書も今日では容易に入手しがたい貴重な文獻資料であるが、幸にも三報告書はもちろん、府縣統計書もその大部分を蒐集することができたので、これらによつて明治十年代の內國貿易の實體をあきらかにし、國內市場の特徵を把握しようとした次第である。

一　東　北　區

青　森　縣

「東北諸港報告書」中、青森縣の箇所には青森・深浦・鰺ヶ澤・十三・野邊地・大湊・川內・大淵・鮫及湊・大畑の十港の輸出入額が揭示してある。まずそれを示すと第一表の如くであつて、青森・鰺ヶ澤・野邊地・鮫及湊の四港

みに青森港をみるに、同港では明治十年の輸出品四十六種、輸入品九十五種、十二年には輸出品五十七種、輸入品百三十六種に及んでおる。これらの輸出入高を一々港別に示すことは紙幅の關係上到底できぬので、重要輸出入品につき、しかも諸港の數字を整理合計した表を作成した。まず輸出品についてみると第三表のごとくである。

青森縣港別輸出入額表（第1表）

港名	明治10年		明治11年		明治12年	
	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額
	円	円	円	円	円	円
青森	206,624	116,228	257,065	227,289	453,658	399,832
深浦	6,262	8,947	10,000	9,143	14,417	11,262
鰺ヶ澤	69,614	66,218	101,552	72,028	104,999	131,249
十三	1,426	841	4,482	1,699	31,383	3,518
野邊地	82,118	103,810	75,442	104,413	132,646	172,542
大湊	5,638	617	2,919	1,227	6,090	3,405
川內	?	?	?	?	7,870	8,036
大淵	?	?	?	?	2,914	5,624
鮫（小）湊	78,346	63,264	209,755	240,785	211,569	598,758
大畑	?	?	?	?	15,505	20,942
合計	450,028	409,925	661,215	656,584	931,051	1,355,168

備考　開拓使編「東北諸港報告書」（明治十三年刊）227—420頁により作成

が主要輸出入港であつたことがわかる。なお、表記の合計額を以て直ちに青森縣の港灣河岸からの輸出入額の全部とみなすことができるかゞ問題であるが、「第四統計年鑑」に明治十六年度青森縣輸出入額として次のごとく記してあるところからみると（第二表）、まず全輸出入額とみなして大過ないかと思われる。

明治16年青森縣輸出入額表（第2表）

港灣河岸	輸出額	輸入額
	円	円
青森港	307,165	359,071
鮫港	270,211	352,099
鰺ヶ澤港	106,625	34,449
其他十三ヶ所	151,689	83,924
合計	835,690	829,543

備考　日本帝國第四統計年鑑262—263頁

次に輸出入品であるが、「東北諸港報告書」は表記の十港につき一々詳細な輸出入物品表を掲げておる。これらをみると、すでに各種の物資が商品として輸出入されていたことがわかるのであつて、試

青森縣輸出品表（第3表）

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		円		円		円
米	67,734石	224,963	57,289石	281,835	39,239石	278,012
大豆	20,189石	61,530	29,162石	101,589	18,256石	74,356
味噌	199,952貫	20,422	207,974貫	21,920	375,674貫	57,760
鰯粕	8本 1,690貫 3,430石 26,709俵	37,346	2,440貫 3,100石 34,521俵	72,865	11,865貫 3,930石 8,688俵	122,538
干鱈	5,018束 3,660貫 1,782俵	3,134	4,051束 2,000貫 72個	1,151	90,203束 1,800貫 5個	66,179
切昆布	565箇	1,985	27,197箇	19,986	10,049束	9,771
煎海鼠	12,980斤	4,594	17,523斤	7,040	37叭 18,930本 2,700斤	17,002
莚	23,489束	5,752	52,125束	13,442	155,301束	61,736
藁縄	94,727丸	2,761	52,828丸	3,211	104,544丸	12,268
漆	169樽	5,823	437樽	19,200	453樽	38,665
飴	6,262貫	1,191	22,083貫	5,636	34,760貫	11,484
材木	?	4,365	?	5,577	?	24,892
其他	—	76,162	—	107,763		206,388
合計		45),028		661,215		981,051

備考 「東北諸港報告書」227—420頁により作成

第4表

品名	生産高	輸出高	百分比
米	538,552石	54,954石	10.2
大豆	39,852石	22,536石	56.5

備考 1) 生産高は第二統計年鑑による明治14年の數字。それ以前の數字は國別となつておるので，明治14年の數字を採用した。
2) 輸出高は前掲第3表の明治10，11，12年三ケ年の一ケ年平均値である。

即ち、米・大豆・鰯粕が重要輸出品で、この三品で全輸出額の七割（十年十一年）乃至五割近く（十二年）を占め、なかんづく米は全體の五割乃至三割をしめておる。しかも輸出米のほとんど大部分が北海道に向け輸出されていたのであつて、試みに明治十年をとつてみると北海道向けの米輸出高は六

青森縣輸入品表（第5表）

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		円		円		円
木綿呉服	192,165反	99,765	282,770反	193,729	536,555反	413,860
古手	1,560箇（1箇＝40枚）	25,834	2,812箇	52,446	3,501箇	102,536
伸繰	2,446箇（1箇＝10貫）	18,902	3,512箇	29,402	5,306箇	48,057
綿	?	24,534	?	25,034	?	54,686
綿糸	?	4,154	?	7,261	?	10,231
西洋呉服	1,618反 47箇	5,586	5,682反 284箇	29,272	2,963反 535箇	64,247
洋糸	39貫 67箇	1,827	78箇	5,257	207箇	20,200
鹽	82,212俵（1俵＝12貫入）	24,640	65,732俵	29,107	65,776俵	45,562
砂糖	白 40,372斤 玉 249,096〃 黒 204箱 焚込 300斤	16,939	白 56,263斤 玉 188,994斤 黒 994個 焚込 4,200斤	29,851	白 183,795斤 玉 422,426斤 黒 2,676箇 焚込22,400斤	85,536
身欠鰊	13,737本（1本＝24把入）	31,207	12,419本	24,838	18,689本	44,974
鹽鮭	94,923本	15,912	141,890本	23,514	147,058本	31,121
鹽鱒	205,176本	11,134	158,229本	9,414	181,178本	13,642
紙	半紙 1,644箇（1箇＝6貫） 中保紙 804箇（1箇＝4貫） 半切紙 92箇（1箇＝1万枚） 渡紙 15本 美濃紙 120束	22,664	半紙 1,265箇 中保紙 951箇 半切紙 105箇 美濃紙 70束 仙過紙 30束	19,845	半紙 2,717箇 中保紙 680箇 半切紙 182箇 渡紙 20本 美濃紙 66束 仙過紙 20束	32,833
煙草	國分 107箱 阿波粉1292箱 刻莫 216箱	9,170	國分 268箱 阿波粉1037箱 刻莫 252箱	9,583	國分 153箱 阿波粉 553箱 煙草 2336箱 刻莫 593箱	24,516
其他		97,657		168,026		363,167
合計		409,925		656,584		1,355,168

備考　「東北諸港報告書」227—420頁により作成す。

萬六千石余に達し、全體の九割以上に及んでおる。

次に、これらの輸出品の中生産高が明らかとなる米及び大豆について生産高と輸出高との比率をみると第四表の如くである。

米及び大豆は陸路によつても縣の内外に販賣されたのであるから、商品化の分量は表記より多かつたわけであるがそれにしても、右は商品化の最低度を示すものと言えよう。

次に輸入品を整理してみると第五表のごとくなる。

主要輸入品は綿織物・古着類・綿・西洋呉服等の衣類關係品を筆頭に、身欠鰊・鹽鮭・鹽鱒などの北海道水産物及び鹽・砂糖であつた。衣類關係品（木綿呉服・古手・伸繼・綿・綿糸・西洋呉服・洋糸）の輸入額は全輸入額の四四%（十年）乃至五二%（十一年、十二年）を、北海道水産物（身欠鰊・鹽鮭・鹽鱒）の輸入額は一四%（十年）乃至六%（十二年）を、鹽輸入額は六%（十年）乃至三%（十二年）を、砂糖は四%（十年）乃至六%（十二年）をしめておる。衣類關係品の中國内品の輸入先は大阪を中心とする上方方面であつたろうし、鹽は瀬戸内海沿岸から、砂糖は讃岐或は西南地方から輸入されたものと考えられる。

なお、明治十九年「青森縣統計書」には十七年以降の青森・鮫兩港の輸出入品が揭載されておるが（一一九丁―一二〇丁）、これをみても主要輸入品は右と殆んど同樣であつたことが知られる。

岩手縣

岩手縣としては「東北諸港報告書」には宮古、山田、釜石三港の輸出入額が揭示されてをる。まずそれを示すと第六表のごとくである。

岩手縣港別輸出入表（第6表）

港名	明治10年		明治11年		明治12年	
	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額
	円	円	円	円	円	円
宮古	?	?	299,555	168,278	330,701	212,744
山田	4,283	10,653	9,729	15,537	13,427	18,657
釜石	?	?	133,366	36,592	155,988	46,248
合計	?	?	442,650	220,407	500,116	277,679

備考　「東北諸港報告書」425—448頁により作成。

また、「明治十五年巖手縣統計書」には明治十五年における縣下港津の輸出入額を第七表のごとく記しておる。

第六表においては各灣及び各河岸場の輸出入額が欠除し、第七表では宮古港の數字がない。また釜石港をみると、第七表の輸出入額は第六表のそれに比しかなり少額で、不完全な統計ではないかと思われる。これらを考慮すると、第六表の宮古・釜石・山田三港の貿易額と第七表の唐丹灣以下の灣及び河岸場の輸出入額とを加えたものが實際に近いものではないかと思う。

次に輸出入品であるが、まず「東北諸港報告書」により宮古・山田・釜石三

明治15年岩手縣輸出入表（第7表）

港津名	輸出額	輸入額
	円	円
釜石港	15,760	350
山田港	31,892	623
唐舟灣	8,346	1,339
赤崎灣	4,769	—
甫嶺灣	100	1,125
末崎灣	5,200	1,200
新山河岸	84,999	164,472
高木河岸	6,148	540
更木河岸	538	67
川前河岸	3,024	291
黒澤尻河岸	137,239	130,113
下河原河岸	11,150	4,815
跡呂井河岸	14,612	1,567
作ノ瀬河岸	4,284	6,275
狐禪寺河岸	9,559	226,497
薄衣河岸	1,060	19,481
合計	338,680	558,755

備考　「明治15年岩手縣統計書」171丁による。

港の輸出品をそれぞれ整理合算し、これをかりに岩手縣の輸出高とみなして示すと第八表のごとくである。

すなわち、これによれば、主要輸出品はほとんど全部水産物で、殊に鮪及び鮪製品は全輸出額の四割内外を占めており、その外では干鰯（一五%乃至一七%）、鰯粕（一二%）、干鮑（一一%）などが主なものであつた。ところが、「明治十五年巖手縣統計書」により各港灣河岸場の輸出品を整理合計してみると第九表の如くになる。

岩手縣輸出品表（第8表）

品名	明治11年		明治12年	
		圓		圓
鮪	28,120本 120石	99,486	21,644本 150石	86,994
鮪透身	39,900個 3,400俵 (1俵＝10貫) (1個幾貫か不詳)	62,570	41,459個 3,520俵	77,530
鮪片前	7,510個 (1個＝10貫)	9,012	7,320個	10,980
鮪節	1,950個 (1個＝8貫)	6,825	2,010個	7,638
干鰯	7,735俵 (1俵＝10貫)	74,254	7,229俵	75,082
鰯粕	22,900俵 (1俵＝15貫)	53,890	22,351俵	64,330
干鮑	243,905斤	47,685	246,900斤	55,776
鮭鹽引	3,043石	28,244	4,090石	42,170
昆布	4,090石	12,270	5,052石	17,682
鰹節	1,892個 (1個＝10貫)	10,644	2,010個	7,638
其他		37,770		47,013
合計		442,650		500,116

備考　「東北諸港報告書」425—448頁により作成す。

明治15年岩手縣輸出品表（第9表）

品名	數量	價額
		圓
米	27,986石	167,110
形銅	4,437本	37,723
鰹節	5,141個	25,375
干鰯	1,789個	20,576
漆汁	234個	21,150
其他		66,746
合計		338,680

備考　「明治十五年岩手縣統計書」171—175丁により作成す。

これによれば、米が最大の輸出品で四九%を占め、形銅、漆汁も重要な輸出品であつた。右兩表にこのような差異のあるのは、第八表が灣・河岸場の輸出高を欠き、第九表が宮古港の數字を欠いておるがためで、米・形銅・漆汁は主に河岸場から輸出され、鮪及び鮪製品・魚粕・干鮑などは主に宮古港から輸出されていたのである。從つて、岩手縣の主要輸出品は米・鮪・干鰯・魚粕・干鮑・鰹節・形銅・漆汁等であつたと言える。

これらの輸出品のうち、米が全生産高に對しどの程度輸出されたかを明治十五年についてみると次のごとくである。

	生産高	輸出高	百分比
米	二三九、七九六石	二七、九八六石	八%二

(備考)　「明治十五年岩手縣統計書」による。

次に輸入品であるが、これもまず「東北諸港報告書」の數字を整理してみると第一〇表の如くである。

右表によれば、岩手縣においても最大の輸入品は衣類關係品(呉服木綿・古手・糸・綿・衣類・唐木綿・蒲團)で、全輸入高の五五%內外をしめる。なかんづく、呉服木綿(三〇%內外)、古手(一四%乃至一八%)が多く、衣類關係品外では洋酒の輸入が特に多かつた。

岩手縣輸入品表(第10表)

品名	明治11年		明治12年	
		圓		圓
呉服木綿	798個 800反	67,695	896個 1,000反	77,950
古手	851個 1,600枚	33,942	951個 1,200枚	38,223
糸	179箇	8,303	263箇	12,624
綿	108箇	2,207	250箇	5,425
衣類	50箇	1,965	90箇	3,616
唐木綿	15箇	1,160	35箇	2,789
蒲團	221箇	5,538	350箇	9,520
洋酒	294個	36,661	320箇	42,374
茶	77箇 450斤	10,224	89箇 500斤	12,007
砂糖	786箇 293樽	5,498	1,140箇 385樽	8,553
小間物	190箇	5,757	218箇	7,630
其他		41,457		56,968
合計		220,407		277,679

備考　「東北諸港報告書」425—448頁により作成す。

(第11表)明治15年岩手縣輸入品表

品名	數量	價格
		円
木綿	7439個	139,745
古手	2,552個	138,333
綿類	1,182個	30,900
唐糸類	358個	11,990
小間物	1,237個	35,974
砂糖	12,230個	33,056
石油	6,148個	26,661
紙	600個	14,950
鹽	18,205俵	12,417
螺	391個	9,742
其他		138,043
合計		558,755

備考　「明治十五年岩手縣統計書」175—179頁により作成す。

また、「明治十五年巖手縣統計書」によつて算出した輸入品は第一一表の如くで、これによつても衣類關係品が六割近くを占め、なかんづく木綿・古手で五割近くをしめておる。

宮城縣

「東北諸港報告書」には宮城縣としては石卷、寒風澤、石濱三港の輸出入額が揭示されている。まずそれを表示すると第一二表のごとくで、石卷は輸出港、寒風澤、石濱は輸入港であつた。

また、「明治十五年宮城縣統計書」には明治十一年以降十五年に至る各港輸出入額が示されているので、その中十一年乃至十三年の分をみると次揭第一三表の如くである。

この兩表によつて當時における宮城縣下港別輸出入の狀態は一應明らかであり、青森・岩手兩縣に比し輸出入が相當活潑であつたことが知られる。

次に輸出入品であるが、まず輸出品をみる。最初に「東北諸港報告書」により石卷・寒風澤・石濱三港の輸出品を整理合算し、これをかりに宮城縣の輸出品高として示すと第一四表の如くである。

これによれば、宮城縣においても、米が最大の輸出品で、全輸出額の七六%（十一年）乃至六三%（十二年）を占め、これにつぐのは大豆（五%乃至一〇%）及び銅（九%乃至七%）などであつた。「其他」の中には約三十種ばかりの商品がふくまれるので、こゝでもすでに多くのものが輸出されていたことがわかる。なお、「明治十五年宮城縣

宮城縣港別輸出入表A（第12表）

港名	明治11年 輸出額	明治11年 輸入額	明治12年 輸出額	明治12年 輸入額
	円	円	円	円
石巻	1,402,659	341,004	1,071,133	577,987
寒風澤	178,515	1,923,473	268,671	2,065,059
石濱	135,515	554,830	134,899	894,997
合計	1,716,689	2,819,307	1,474,703	3,538,043

備考　寒風澤，石濱は松島灣浦戸村にある。「東北諸港報告書」453—484頁により作成す。

宮城縣港別輸出入表B（第13表）

港名	明治11年 輸出額	明治11年 輸入額	明治12年 輸出額	明治12年 輸入額	明治13年 輸出額	明治13年 輸入額
	円	円	円	円	円	円
石巻	1,445,742	59,317	1,052,643	511,710	1,299,660	91,615
野蒜	52,788	—	34,322	—	65,854	—
寒風澤	205,270	2,039,304	269,925	2,006,870	41,574	641,700
潜ヶ浦	—	—	—	—	319,164	1,215,283
石濱	38,008	558,831	131,571	889,897	65,828	517,967
荒濱	57,021	7,172	164,279	122,812	65,105	20,240
氣仙沼	15,017	13,315	22,070	60,050	24,035	26,065
合計	1,813,846	2,677,939	1,674,810	3,591,339	1,881,220	2,512,870

備考　—とあるのが實際に輸出入額がなかつたのか，不明なのか必ずしも明らかでない。「明治十五年宮城縣統計書」上卷172—173頁による。

宮城縣輸出品表A（第14表）

品名	明治11年		明治12年	
		円		円
米	288,002石	1,316,304	160,791石	927,685
大豆	18,642石	85,205	29,369	160,499
銅	20,049箇（1箇＝7貫500匁）	162,020	13,738箇	104,711
石盤	5,199箇	18,065	4,630箇	37,490
魚粕	2,958箇	6,853	7,882箇	22,738
鰹節	4,832箇	20,908	3,141箇	20,294
昆布	4,090石	12,270	5,052石	17,682
海苔	418箇	10,164	480箇	16,390
其他		84,900		167,214
合計		1,716,689		1,474,703

備考．「東北諸港報告書」453—484頁により作成す。

宮城縣輸出品表B（第15表）

品名	明治11年		明治12年		明治13年	
	數量	價格	數量	價額	數量	價額
		円		円		円
米	318,214石	1,457,678	153,251石	991,030	150,602石	1,234,095
大豆	36,585石	142,808	39,399石	196,805	28,007石	148,881
銅	20,046箇	162,092	12,504箇	96,077	24,385箇	144,908
其他		51,268		390,898		353,336
合計		1,813,846		1,674,810		1,881,220

備考　「明治十五年宮城縣統計書」上卷174—182頁により作成す。

第16表

品名	明治11年			明治12年			明治13年		
	生産高	輸出高	百分比	生産高	輸出高	百分比	生産高	輸出高	百分比
	石	石		石	石		石	石	
米	568,798	318,214	55.9	646,272	153,251	23.7	768,220	150,602	19.6
大豆	83,076	36,583	44.0	92,716	39,399	42.5	118,667	28,007	23.6

備考　「明治十五年宮城縣統計書」上卷57頁及び174—182頁による。

宮城縣輸入品表A（第17表）

品名	明治11年		明治12年	
		円		円
呉服太物	26,265箇	1,253,631	41,939箇	1,925,890
古手	6,777〃	187,691		
繰綿	20,090〃	341,740	17,872〃	317,774
唐糸金巾	5,247〃	155,588	1,434〃	77,836
小間物	10,424〃	276,280	12,763〃	324,205
砂糖	31,107〃	181,926	31,703〃	234,541
鹽	63,470〃	24,982	33,427〃	14,965
石油	25,527〃	91,146	30,527〃	78,904
瀬戸物	11,357〃	41,262	15,900〃	64,582
鐵金物	11,391〃	75,441	17,566〃	110,301
生蠟	3,355〃	37,435	3,942〃	46,882
菜種及洋酒	3,985〃	36,474	8,568〃	97,327
紙	394〃	18,695	1,434〃	77,836
其他		97,016		211,766
合計		2,819,307		3,538,043

備考　「東北諸港報告書」453—484頁により作成す。

統計書」により各港の輸出品を合計してみても、第一五表にみるように、最大の輸出品は米（六〇%乃至八〇%）で、これにつぐのは大豆（八%乃至一一%）及び銅（九%乃至五%）であつた。

ちなみに、米及び大豆の輸出高が生産高に對しどの程度の

宮城縣輸入品表B（第18表）

品名	明治11年 數量	明治11年 價額	明治12年 數量	明治12年 價格	明治13年 數量	明治13年 價額
		円		円		円
呉服太物	28,231箇	1,253,580	45,926箇	1,762,911	36,825箇	1,037,682
古手	5,066〃	288,701	6,978〃	43,187	3,627〃	179,590
綿	19,895〃	315,821	26,833〃	432,850	8,270〃	237,148
唐糸	2,071〃	66,778	2,311〃	93,084	1,562〃	23,564
和洋小間物	10,319〃	286,638	17,744〃	320,469	10,611〃	325,796
砂糖	28,418〃	167,037	38,711〃	258,991	24,997〃	218,433
鹽	25,230〃	9,685	15,656石	29,007	13,958石	26,318
石油	15,192〃	62,275	26,858〃	75,964	22,777箇	53,662
陶器	8,355〃	27,753	13,653箇	43,782	18,111〃	65,733
鐵物類	9,489〃	66,436	20,966〃	120,522	11,263〃	58,765
生蠟	2,313〃	29,421	3,590〃	41,498	1,393〃	18,269
菜種	2,614〃	32,352	6,432〃	91,516	3,421〃	85,401
紙	1,260〃	12,915	1,070〃	26,958	1,198〃	15,992
其他		58,547		250,600		166,517
合計		2,677,939		3,591,339		2,512,870

備考　「明治十五年宮城縣統計書」182—189頁により作成す。

割合を占めていたかをみると前掲第一六表の如くで、その率は前二縣に比し相當高率であり、商品化の程度の高かつたことを示している。

次に輸入品。まず「東北諸港報告書」についてみると、こゝでも輸入品の種類は相當多く、たとえば石巻港についてみると明治十一年において五十八種に及んでおる。それらを整理合算してみると第一七表のごとくである。

表記のごとく宮城縣にもおいて呉服太物・古手・繰綿・唐糸金巾などの衣類關係品が最大の輸入品で、これだけで全輸入額の六七%乃至六九%を占める。中でも呉服太物は最大の輸入品で、四四%を占めている。その外では小間物（九%）、砂糖（六%）、石油（二%乃至三%）、鐵金物（二%乃至三%）などが主な輸入品であつた。なお、「明治十五年宮城縣統計書」により各港の輸入品を合算してみても、第一八表にみるように、右とほゞ同様の事情がみられる。

秋田縣

秋田縣では土崎・能代兩港が重要な港であつたが、「東北諸港報告書」には明治十年から十二年に至る土崎港の輸出入額のみが揭載され、能代港については調査員出張の年に火災があつて資料燒失したためその輸出入額を知ることができぬ旨が報告されてゐる。また、「秋田縣統計書」はこの種の調査を全然欠いてゐる。從つてこゝでは土崎港のみについてみる。まず輸出についてみると輸出品は十四種乃至十九種であるが、それを整理すると第一九表の如くである。

こゝにおいても最大の輸出品は米で、いづれの年においても全輸出額の八〇%以上を占めてゐる。次は「鰊・鰯干鍜」であるが、これはわずか五%內外を占めるにすぎない。米の輸出高が生產高に對しどの程度の割合を占めたか

秋田縣土崎港輸出表（第19表）

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		円		円		円
米	136,000石	383,150	149,000石	484,330	127,000石	688,090
大豆	6,400石	16,704	5,400石	16,470	5,500石	27,500
小豆	2,450石	9,800	2,800石	10,080	2,150石	9,675
鰊・鰯・干鍜	47万貫	20,210	54万貫	34,560	40万貫	40,000
酒	14,000樽	10,724	16,000樽	13,280	12,000樽	18,000
酒粕	10万貫	2,800	12万貫	4,080	10万貫	5,250
油粕	14万貫	5,740	14万貫	8,400	12万貫	12,000
其他		30,416		20,214		28,490
合計		479,544		600,414		829,005

備考　「東北諸港報告書」187—201頁により作成す。

第20表

秋田縣米生產高	土崎港米輸出高	百分比
835,168石	137,333石	16.4

生產高は第二統計年鑑による明治14年の數字，それ以前は國別生產高であるので採用できない。
輸出高は前揭第19表の明治10，11，12年の平均値。

をみると第二〇表の如くである。

右の輸出高は土崎港のみであるので、能代港その他を加えた秋田縣全體における米輸出高の生産高に對する比率はおそらく三割程度に及んだのではないかと思われる。

次に輸入品をみると第二一表のごとくである。

最大の輸入品はやはり綿・古手・伸繼・木綿等の衣類關係品で、その額二十二萬圓乃至二十四萬圓に及び、全輸出額の三〇%乃至四〇%を占める。これにつぐのは鹽(九%乃至一八%)、砂糖(八%乃至一〇%)、身欠・鹽鮭・鹽鱒などの北海道水産物(九%乃至一三%)、蠟及び蠟燭(六%乃至一〇

秋田縣土崎港輸入表(第21表)

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		円		円		円
綿	?	97,974	?	97,326	?	97,464
古手	2,000個(30枚入)	52,000	2,000個	60,000	1,800個	54,000
伸繼	10,000個(10貫入)	80,000	8,000個	65,600	8,000個	72,000
木綿	430個(60反入)	10,230	340個	10,200	540個	16,200
鹽	140,000俵(5斗入)	49,000	126,000俵	47,250	156,000俵	140,400
砂糖	?	44,348	?	53,236	?	67,392
身欠鰊	11,900丸(24把入)	27,370	6,720丸	15,321	8,070丸	25,178
鮭・鹽引	131,500本	17,390	223,000本	40,360	295,500本	43,684
鹽鱒	?	4,779	?	6,340	?	9,917
蠟・蠟燭	?	36,900	?	53,672	?	76,200
石油	11,000箱(2斗入)	35,300	9,300箱	33,480	13,000箱	29,900
紙	?	30,201	?	27,513	?	34,000
疊表	9,300丸(10枚入)	9,875	8,950丸	12,520	8,600丸	14,600
鐵	?	10,630	?	13,512	?	11,240
梨子	6,000箱(10貫入)	6,600	6,400箱	8,000	7,400箱	11,848
其他		39,269		53,919		60,250
合計		552,926		538,249		764,274

備考　「東北諸港報告書」187—201頁により作成す。

%)、石油（六%乃至四%）、紙（五%乃至四%）などであつた。

以上は土崎一港の狀態であるが、同港は秋田縣の重要港であるので、右を以てしても秋田縣輸出入の大勢を知ることができると思う。

なお、「第二統計年鑑」によれば、明治十三年における秋田縣各港河岸場の總輸出額一、八一四、八七五圓、總輸入額一、四二二、四〇九圓、主要輸出品米・大豆・杉板、主要輸入品鹽・砂糖・繰綿であつた（二〇二頁）

山形縣

「東北諸港報告書」には山形縣としては酒田港のみの數字が示されておる。それでまず同港の輸出からみると次掲第二二表の如くである。

すなわち、最大の輸出品はやはり米で、全輸出額の八二%（十一年）乃至八九%（十二年）を占める。次いで酒であるが、これは一四%（十一年）乃至九%（十二年）をしめるにすぎない。また、これらの輸出品が山形縣全體の生産高に對しどのくらいの比率をしめるかをみると第二三表の如くである。

この輸出高は酒田一港であるので、その他の港灣からの輸出高を考慮すると、右の比率は更に大であつたとみてよい。

酒田港は北海道との關係が特に深く、輸出においても輸出額の四割近くが北海道に向けられておる。こころみに明治十二年をとり各輸出品についてこの關係をみると第二四表の如くである。

次に輸入をみると第二五表の如くである。

これによれば、酒田港における最大の輸入品は北海道水產物（身欠鰊・生鰊・鮭鹽引・鱒鹽引・筋子・數ノ子・干

鮮等）で、その額明治十一年には二二〇、六三〇圓に及び、全輸入額の六三%を、十二年には二八九・〇一九圓で、やはり六三%を占める。これらの水産物のうちでは身欠鰊及び鹽引鮭が最も重要なものであつた。水産物につぐのは繰綿・木綿・古手等の衣類關係品で、その額明治十一年には四二、二一七圓で一二%を、十二年には一〇〇、五九〇圓で二二%を占めてゐる。その外では鹽が一〇%乃至一一%を、砂糖が四%内外を、蠟が三%を占め比較的重要な輸入品であつた。

以上は酒田一港の狀態であるが、次の第二六表にみるように、當時酒田港は山形縣下各

山形縣酒田港輸出品表（第22表）

品名	明治11年		明治12年	
		円		円
米	119,372石	494,629	108,391石	650,482
酒	14,127〃	84,765	6,353〃	50,824
大豆	5,456〃	14,025	5,330〃	22,506
小豆	1,923〃	5,295	1,852〃	8,336
醤油	170〃	1,360	183〃	1,830
合計		600,074		733,978

備考　「東北諸港報告書」171—178頁により作成す。

第23表

品名	山形縣生産高	山形縣酒田港輸出高	百分比
米	755,332石	113,882石	15.1
大豆	68,941〃	5,393〃	7.1
酒	94,134〃	10,240〃	10.8

備考　生産高はいづれも第二統計年鑑による明治14年の數字。
輸出高は前掲第22表の11年12年の一ケ年平均値。

明治12年山形縣酒田港輸出高表（第24表）

品名	全輸出高	北海道向輸出高	百分比
米	108,391石	39,413石	36.4
酒	6,353石	5,883石	92.6
大豆	5,330石	480石	9.0
小豆	1,852石	385石	20.8
醤油	183石	180石	100.0

備考　「東北諸港報告書」169—171頁により作成す。

港輸出入高の八割をしめていたのであるから、以上を以て山形縣全體を推しても大過ないと考える。

山形縣酒田港輸入表（第25表）

品名	明治11年		明治12年	
		円		円
鹽	45,232石	36,185	53,220石	50,559
砂糖	219,169斤	17,438	231,020斤	20,926
蠟	14,406貫	12,057	18,250貫	16,425
木綿	11,917反	8,342	18,600反	14,880
繰綿	21,562貫	28,030	32,060貫	78,090
古手	5,430貫	5,845	6,350貫	7,620
半紙	3,055〆	4,178	5,050〆	7,575
鐵	20,020箇	4,410	15,600貫	3,432
陶器	3,942箇	3,059	4,380貫	6,570
身欠鰊	45,599箇（1箇＝20束）	86,524	50,339箇	100,678
生鰊	831,100本	20,777	530,100本	10,680
鮭鹽引	447,850本	53,742	501,300本	65,168
鱒鹽引	498,880本	9,977	458,310本	9,624
筋子	3,223樽（9貫入）	9,027	3,783樽	10,731
數ノ子	57,654貫	16,143	50,098貫	14,779
干鮮	36,560貫	14,624	35,050貫	14,721
其他		19,522		19,516
合計		349,880		451,964

明治13年山形縣港別輸出入表（第26表）

港名	輸出額	主要輸出品	輸入高	主要輸入品
	圓		圓	
酒田港	1,267,614	米，酒	671,777	鹽，繰綿，鮭類
賀茂港	241,822	米，酒，油	136,025	鹽，砂糖，繰綿
其他二ケ所	4,247	—	2,108	—
合計	1,513,683		809,910	

備考　第二表統計年鑑 202頁による。

福島縣

「東北諸港報告書」にも「福島縣統計書」にも福島縣下の輸出入額については全然記載がない。たゞ「第二統計年鑑」及び「第四統計年鑑」には明治十三年及び十六年の同縣の輸出入額が記されておるのでそれを表示すると第二七表のごとくである。

福島縣についてはこれによつて輸出入の大略を知ることができる程度である。

二　北陸區

新潟縣

「東北諸港報告書」は新潟縣諸港の輸出入についても記載しておる。それによれば、新潟を筆頭に直江津・柏崎・出雲崎・寺泊の五港が主要港であつた。まずその輸出入額をみると第二八表の如くである。

また「第四統計年鑑」によれば、明治十六年における新潟縣下諸港の輸出入額は第二九表のごとくであつた。

福島縣輸出入表（第27表）

港名	明治13年 輸出額	主要輸出品	輸入額	主要輸入品	明治16年 輸出額	主要輸出品	輸入額	主要輸入品
	圓		圓		圓		圓	
阿武隈川河岸	147,441	太物，煙草，粉蒟蒻	260,337	砂糖，大豆，藍	97,550	刻煙草，太物	218,927	鹽，砂糖，大豆，石油，肥料
津川河岸	81,660	粉蒟蒻，苧，漆器	163,007	鹽，太物，砂糖				
梁川河岸					5,879	太物	106,613	米
其他二十九ヶ所	333,676		378,071					
其他十二ヶ所					118,795		333,644	
合計	562,777		801,415		222,224		659,184	

備考　「第二統計年鑑」201頁，「第四統計年鑑」262頁により作成す。

新潟縣港別輸出入表（第28表）

港名	明治10年		明治11年		明治12年	
	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額
	円	円	円	円	円	円
新潟	662,690	701,117	1,501,536	2,139,301	2,556,331	2,564,037
直江津	424,618	429,195	493,246	458,001	484,692	452,785
柏崎	216,339	107,510	212,280	169,652	236,405	203,379
出雲崎	?	?	?	?	555,827	366,740
寺泊	?	?	37,668	56,837	66,792	79,259
計	1,203,647	1,246,822	2,244,730	2,823,791	3,900,047	3,666,200

備考　「東北諸港報告書」18—123頁により作成す。

明治16年新潟縣輸出入表（第29表）

港名	輸出額	輸入額
	円	円
新潟港	2,011,161	2,141,217
柏崎港	104,422	41,642
其他11ヶ所	175,635	555,027
合計	2,291,218	2,737,886

備考　「第四統計年鑑」259頁により作成す。

新潟縣輸出品表（第30表）

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		円		円		円
米	654,634俵	956,753	715,906俵	1,787,623	1,080,904俵	2,645,247
麥	6,121俵	10,908	10,213俵	18,299	9,050俵	18,041
大豆	44,931俵	69,920	25,853俵	49,298	27,808俵	77,751
小豆	15,591俵	25,585	14,254俵	25,952	3,823俵	7,971
麻苧	1,213箇	22,924	1,376箇	27,343	9,995箇	305,321
縮布	35,136反	106,813	38,834反	125,819	36,985反	131,811
煙草	3,218箇	24,504	2,611箇	16,443	1,984箇	17,031
酒類	酒 30,091樽 燒酎 17,124箇	24,937	酒 28,050樽 燒酎 13,221箇	27,379	酒 92,952樽 燒酎 42,935箇	27,408
石油	16,090箱	28,980	13,976箱	30,045	21,949箱	69,365
其他		32,923		136,529		600,101
合計		1,303,647		2,244,730		3,900,047

備考　「東北諸港報告書」18—123頁により作成す。

第31表

新潟縣米生產高	新潟縣米輸出高	百分比
1,396,018石	464,789石	34.8

備考　生產高は第二統計鑑による明治14年の數字。輸出高は第30表掲載明治12年の數字を1俵4斗3升入として換算したもの。

新潟縣輸入品表（第32表）

品名	明治10年		明治11年		明治12年	
		圓		圓		圓
木綿反物類	1,154箇	45,853	1,585箇 17反	85,129	3,072箇 5,050反	165,671
綿	12,209本	147,758	439,196本	1,926,456	22,836本	184,353
古手	1,999個	61,924	2,225個	70,203	2,105個	66,307
金巾	—	—	282個	34,985	1,374個	204,867
唐糸	—	—	1,317個	138,650	3,073個	528,447
鮭	470,915本	66,686	600,640本	71,464	1,648,880本	346,600
鹽鱒	396,788本	18,260	831,386本	41,205	1,219,274本	97,291
身欠鰊	36,089箇	63,975	40,748箇	72,152	126,555箇	327,443
鹽	414,343俵	166,667	268,094俵	141,104	369,330俵	295,674
砂糖		143,216		168,491		338,336
蠟	11,748叺	83,178	9,213叺	141,862	8,206叺	136,947
紙		47,109		38,561		61,000
鐵		38,505		63,190		19,490
金物類		36,815		90,429		146,401
蔗類	3,939箇 132,910枚	27,143	8,068箇	24,933	9,413箇	31,383
材木類		57,136		33,191		39,340
手挽物						
其他		242,597		579,061		676,650
合計		1,246,822		2,823,791		3,666,200

備考　鮭については明治十年及び十一年に夫々表記以外に 900,000本が輸入されているが代價不詳である。
鹽鱒についても表記以外に明治十年600,000本，十一年450,000本が輸入されているが代價不詳である。
身欠鰊については表記の外に明治十年40,000箇，十一年47,000箇が輸入され，代價不詳である。
「東北諸港報告書」18頁—123頁により作成す。

次に輸出入品であるが、まず輸出品についてみる。「東北諸港報告書」掲載の新潟港以下五港の輸出高を新潟縣全體のそれとみなして品目別に輸出品を整理合算してみると前掲第三〇表のごとくである。

屈指の米作地新潟縣においては、最大の輸出品はいうまでもなく米で、全輸出額の七〇%乃至八〇%を占めておるこれにつぐのは麻苧及び縮布（麻）でこの兩者で七%乃至一〇%程度を、その他としては大豆・石油・酒等が主要な輸出品であつた。なお、最大の輸出品米が全生産高に對しどの程度の比率を占めていたかをみると第三一表の如くである。

次にやはり「東北諸港報告書」によつて輸入品を整理してみると第三二表の如くである。

最大の輸入品は木綿反物類・綿・古手・金巾・唐糸などの衣類關係品で、十年には二十五萬五千余圓で全輸入額の二五%を、十一年には百六十五萬四千圓余で五八%を、十二年には百十四萬九千圓余で三一%を占めておる。衣類關係品では綿・木綿反物類が重要なものであるが、明治十一年、十二年へと唐糸・金巾など外國品が擴大的に輸入されるにいたつたことも注目に値する。北海道水產物（鮭・鱒・身欠鰊）の輸入も相當巨額で、十年には十四萬八千九百圓余で全輸入額の一二%を、十一年には十八萬四千八百圓余で七%を、十二年には七十七萬一千三百圓余で二一%を占めておる。その外では鹽が五%乃至一三%を、砂糖が六%乃至一一%を占めて注目すべき輸入品であつた。

なお「明治十六年新潟縣統計書」には同年の新潟港及び直江津港の輸出入額が揭載されているが、これによつても主要輸出入品は右とほとんど同樣であつた（二一—四頁）。

富山縣

富山縣は明治十六年五月に設置され、それ以前は石川縣に屬していたが、こゝでは便宜上越中國を最初から富山縣

として取扱うことにした。

「二府四縣采覽報文」には越中國としては滑川・魚津・東岩瀨・伏木四港の明治十一年における輸出入額が揭載されておる。まずそれをみると第三三表のごとくで、伏木港の地位が壓倒的であつた。

明治11年富山縣港別輸出入表（第33表）

港名	輸出額	輸入額
	円	円
滑川	227,500	217,055
魚津	161,040	132,130
東岩瀨	325,050	49,525
伏木	1,455,626	1,517,503
合計	2,169,216	1,916,213

備考　「二府四縣采覽報文」93頁—130頁により作成す。

また、「明治十三年石川縣統計表」によれば、越中國氷見・放生

明治11年富山縣輸出入品表（第34表）

輸出			輸入		
品名	數量	價格	品名	數量	價格
		円			円
米	323,500石	1,412,200	胴鍊	2,642,080貫	451,474
木綿・反物	478,000反	290,900	笹目鍊	558,000貫	81,801
藥	9,980個	299,000	鍊〆粕	364,840貫	28,167
笥笠	1,440,000蓋	102,000	身欠鍊	80,800貫	15,660
木地類					
腕膳類		50,000	小計		577,102
鐵物	3,500箇	35,000			
其他		80,116	綿	326,760貫	440,300
			洋糸	950個	142,500
			砂糖	7,740挺 1,230樽	113,100
			蠟	63,360貫	59,300
			鹽	82,800俵 (1俵4斗4升又は5斗入)	47,850
			小間物	810個	40,500
			石油	2,670函	40,100
			炭	253,500俵	25,300
			鐵	8,070束 (1束＝12貫)	25,600
			懸繼	1,610個	24,000
			陶器	6,820個	20,440
			其他		374,121
合計		2,169,214	合計		1,916,213

備考　「二府四縣采覽報文」93頁—130頁により作成す。

津・伏木・水橋・東岩瀬・魚津六港の合計輸出額四、八八三、五九二圓、合計輸入額四、四五〇、三九五圓である（港別には明らかでない）。

次に輸出入品についてみるとやはり各種の物品が輸出入されておる。「二府四縣采覽報文」によると、主要港たる伏木港では輸出品四十九種、輸入品九十三種に達する。つぎに「采覽報文」により伏木港以下四港の輸出入品を整理合算し、これをかりに富山縣輸出入品表として示すと第三四表のごとくである。表記のように、最大の輸出品は米で全輸出額の六五%を占めておる。これにつぐのは藥（一四%）、木綿反物（九%）、管笠（五%）などであつた。

主要輸入品は北海道からの鰊製品と綿とであつた。鰊製品の輸入額は合計五十七萬圓余、全輸入額の三〇%を占めているが、中でも胴鰊の輸入最も多く、全輸入額の二四%に當つておる。綿は輸入額四十四萬圓余で、胴鰊のそれにほゞ匹敵し、全體の二三%を占めておる。その他の輸入品の中で比較的重要なのは洋糸（七%）、砂糖（六%）、蠟（三%）、鹽（二%五）等であつた。

なお、「明治十三年石川縣統計表」によつて越中國氷見・放生津・伏木・水橋・東岩瀬・魚津の六港の輸出入品をみると、輸出品六十六種、輸入品七十二種の多きに達する。それを整理すると第三五表のごとくである。

すなわちこれによつても、最大の輸出品は米で、全輸出額の六四%をしめ（%は純輸出額について算出す。以下同斷）、これにつぐのは管笠（一二%）、金物（七%）、藥（六%）、呉服及び木綿反物（六%）、莚及び莫蓙（四%）などであつた。輸入品では最大のものはやはり北海道からの鰊製品で、その純輸入額一、〇八四、六三八圓に達し、全體の三三%をしめる。中でも胴鰊が最も重要であつた。これにつぐのは綿（一二%）、昆布（七%）、材木（六%）、陶器（五%）、炭（四%）、綿糸（四%）、砂糖（三%）などであつた。

最後に、最大の輸出品たる米の輸出高が生産高に對しどの程度の比率をしめていたかをみると、明治十年の越中國

明治13年富山縣輸出入品表（第35表）

品名	輸出		輸入		差引	
	石	圓		圓	石	圓
米	321,414	2,418,929	—	—	+ 321,414	+2,418,929
	石		石		石	
鹽	15,504	24,769	58,638	86,213	− 43,134	− 61,444
	斤		挺			
砂糖	84,420	28,630	9,291	134,323	?	− 105,693
	個		個		個	
呉服	4,261	415,470	2,516	251,543	+ 1,745	+ 163,927
	個		個		個	
木綿反物	3,483	77,262	—	—	+ 3,483	+ 77,262
	個		個		個	
綿糸	126	2,520	1,391	132,542	− 1,263	− 130,022
	本		本		本	
綿	7,500	195,000	31,303	605,651	− 23,803	− 410,651
	貫		石目			
胴鰊	59,100	16,548	83,635	869,870	?	− 853,322
	貫		石目			
笹目鰊	192,000	84,480	26,067	204,704	?	− 120,224
	貫		石目			
鰊〆粕	102,000	34,200	5,341	60,818	?	− 26,618
	貫		石目			
身欠鰊	1,200	280	2,862	84,754	?	− 84,474
	個		個		個	
昆布	5,555	27,775	56,793	283,004	− 51,238	− 255,229
	個		個		個	
藁	11,538	403,830	5,457	160,860	+ 6,081	+ 242,970
	枚				枚	
莚	1,500,116	62,962	—	—	+ 1,500,116	+ 62,962
	束		束		束	
呉座	64,873	96,107	893	1,331	+ 63,976	+ 94,776
	本				本	
菅笠	37,361	448,332	—	—	+ 37,361	+ 448,332
	石目		石目		石目	
材木	360	375	604,488	229,018	− 604,128	− 228,643
	個		個		個	
金物	8,671	256,710	1,955	16,169	+ 6,716	+ 254,755
	個		個		個	
陶器	1,376	48,160	13,025	213,302	− 11,649	− 165,142
	俵		俵		俵	
炭	3,010	1,505	365,070	143,758	− 362,060	− 142,253
	箱		箱		箱	
石油	40	120	13,600	46,750	− 13,560	− 46,630
其他		239,628		925,785		− 686,157
合計		4,883,592		4,450,395		+3,763,913 −3,316,502

備考　「明治十三年石川縣統計表」111頁—133頁により作成す。

の米生産高は八三一、四四四石であるので（明治十年全國農産表）、輸出高三二三、五〇〇石（明治十一年）は約三七%に當る。また、明治十三年の越中國米生産高は一、〇六五、三三三石であるので（明治十三年農産表）、輸出高三二一、四一四石は三〇%にあたる。

石川縣

「二府四縣采覽報文」には現在の石川縣に屬する港として七尾・輪島・福浦・羽咋四港の明治十年の輸出入額が掲載されており、その外、明治十年の七尾港輸出入額も掲げてある。ところで、明治十年の數字は各港とも石川縣勸業課で作成したものであるが、「采覽報文」も指摘しておるように、「粗漏の調査」で、脫漏が相當多いようである。試みにこの明治十年七尾港の數字を明治十一年同港の數字と比較すると總額において次のごとき差異がある。

	輸出高	輸入高
明治十年	六一、八六七圓	一二四、四八七圓
同十一年	八〇二、五一三	六五一、八〇〇

備考　兩年度とも再輸出額をふくむ。

「二府四縣采覽報文」二三三―二三六頁、一六六―一七三頁による。

從つて明治十年度の統計は七尾港のみならずその他の諸港についてもせいぜい參考程度にしかならぬと思われる。「明治十三年石川縣統計表」には加賀、能登兩國の港として、鹽谷・安宅・美川・金石・川尻・福浦・富木・輪島・飯田・宇出津・七尾の十一港があげられ、その合計輸出入額が示されておるが、それによると輸出八三八、五五二圓、輸入一、八四五、九五〇圓である（一一一頁―一三〇頁）。また明治十四、十五、十六年「石川縣統計表」によれば、

石川縣港別輸出入表（第36表）

港名	明治14年		明治15年		明治16年	
	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額	輸出額	輸入額
	圓	圓	圓	圓	圓	圓
安宅	33,046	208,286	26,310	154,573	57,728	96,037
金石	108,512	526,417	209,138	878,493	259,459	544,642
七尾	732,367	509,115	327,140	336,340	118,676	150,192
輪島	47,927	44,259	527,140	30,475	182,583	47,458
合計	921,852	1,283,077	1,089,728	1,399,881	618,446	838,329

備考　明治十四年，明治十五年，明治十六年，各石川縣統計表によつて作成す。

安宅・金石・七尾・輪島四港の輸出入額は第三六表の如くである。

次に輸出入品であるが、「明治十三年石川縣統計表」によつて前記の加賀・能登十三ヶ港の輸出入品を整理合算してみると第三七表の如くである。

まず輸出品であるが、石川縣においては輸出品の多くが再輸出品で、純粋の輸出品は比較的すくなかつた。主要な純輸出品をみると、干魚・鹽魚・生魚などの魚類（三四%二）、漆器（一七%〇）、管笠（一二%九）、合藥（一二%一）、清酒（一〇%〇）、莚（八%二）などである（%は全純輸出額に對するもの）。つぎに純輸入品についてみるに最大のものは米で、全純輸入額の二〇%八を占める。これにつぐのは銅鍊・笹目鍊・鍊粕・身欠鍊などの鍊製品（一八%二）、材木（八%八）、砂糖（五%七）、紙（五%三）、蠟（五%〇）、綿（四%六）、呉服（四%四）などであつた。

明治13年石川縣輸出入品表（第37表）

品名	輸出		輸入		差引	
米	28,566石	221,077円	66,165石	485,390円	− 37,599石	−264,313円
小麥	305	1,708	2,558	13,600	− 2,253	− 11,892
大豆	241	1,520	6,018	50,067	− 5,777	− 48,547
鹽	43,164	83,699	50,380	77,808	− 7,216	+ 5,891
砂糖	211挺 2,230斤	3,643	9,015挺	76,786	?	− 73,143
清酒	2,604石	93,660	362石	7,510	+ 2,242石	+ 26,150
干魚	9,873個	22,752	5,348個	13,874	+ 4,525個	+ 8,878
鹽魚	?	45,954	?	9,188	?	+ 36,766
生魚	3,818	45,003	—	—	+ 3,818	+ 45,003
呉服	36	700	1,086	57,140	− 1,050	− 56,440
古着	—	—	629	16,687	− 629	− 16,687
綿	1,007本	9,402	7,842本	67,738	− 6,835本	− 58,336
藍玉	42個	382	1,416個	14,053	− 1,374個	− 13,671
胴鍊	162,156貫	33,466	25,519石目	179,303	?	−145,837
笹目鍊	226,000	29,220	9,388	44,231	?	− 15,011
鍊粕	—	—	10,977	33,899	− 10,977石目	− 33,899
身欠鍊	69,683	14,257	4,934	53,597	?	− 39,340
合薬	921個	32,215	—	—	+ 921個	+ 32,215
莚	916,000枚	21,850	—	—	+916,000枚	+ 21,850
笥笠	3,300本	34,280	—	—	+ 3,300本	+ 34,280
材木	10,739石	14,246	73,941石	126,851	− 63,202石	−112,605
漆器	3,443個	45,489	52個	337	+ 3,391個	+ 45,152
陶器	450	1,875	9,323	18,082	− 8,883	− 16,207
荒物	1,039	1,894	44,571	55,947	− 43,532	− 54,053
小間物	31	1,550	2,517	16,637	− 2,486	− 15,087
紙	89	31,920	277	99,720	− 188	− 67,800
蠟	40帖	410	3,768帖	64,244	− 3,728帖	− 63,834
鐵	53束	1,081	4,993束	30,832	− 4,940束	− 29,751
石灰	393俵	62	413,738俵	52,739	−413,345俵	− 52,677
石油	980箱	1,626	10,655箱	28,282	− 9,735箱	− 26,656
炭	148,559俵	13,997	27,866俵	4,878	+120,963俵	+ 9,119
其他	—	89,614	—	146,530		− 56,916
合計		838,552		1,845,950		−1,272,702 + 265,304

備考　「明治十三年石川縣統計表」111—133頁により作成す。

福井縣

福井縣（越前・若狹）は明治十五年から獨立しそれ以前は石川縣に屬していたが、こゝでは便宜上最初から獨立せるものとして取扱うことにした。

「二府四縣采覽報文」には福井縣（越前・若狹）としては坂井（今日の三國）、敦賀・小濱三港の明治十一年度の輸出入額が揭載されておる。まずそれを示すと第三八表のごとくである。

明治11年福井縣港別輸出入表（第38表）

港名	輸出額	輸入額
	円 円	円 円
坂井(三國)	335,840(334,340)	343,719(342,219)
敦賀	41,992 (40,848)	282,947(281,803)
小濱	165,123 (98,043)	265,758(200,246)
合計	542,955(473,231)	892,424(824,268)

備考　カツコ內の數字は再輸出額を控除したものである。
「二府四縣采覽報文」31—34頁，241—246頁，264—269頁により作成す。

明治15年福井縣港別輸出入表（第39表）

港名	輸出額	輸入額
	円	円
坂井港	1,073,165	814,200
敦賀港	82,882	176,584
小濱港	139,678	159,379
合計	1,295,725	1,150,163

備考　「明治十五年福井縣統計書」66丁による。

また、「明治十五年福井縣統計書」には右三港の輸出入が第三九表のごとく記載されておる。

輸出入品についてみると、やはり各種の商品が輸出入されていたのであつて、たとえば「采覽報文」によつて明治十一年小濱港の場合をみると、輸出品四十六種、輸入品四十三種に及んでおる。右三港は福井縣における主要輸出入港であるので、その合計額を以てかりに同縣の輸出入高と考え、まず「采覽報文」により明治十一年の輸出入品を示すと第四〇表の如くである。

明治11年福井縣輸出入品表（第40表）

輸出			輸入		
		圓			圓
米	32,428石	135,262	胴鍊	728,836貫	133,278
菜種	12,860石	77,520	身欠鍊	37,067束 19,246把	79,369
種油	2,198石	54,778	鍊白子	31,640貫 14,068本	55,323
桐油	803石	18,166	鍊〆粕	132,640貫 1,334本	6,600
莚	155,408束 (100枚入)	32,472	笹目鍊	3,229本 1,660貫	9,487
蠟燭	11,082	16,932	鹽鱒	15,290本 12,000貫	93,330
石灰	196,394俵	14,177	數ノ子	2,338本 6,500貫	13,222
其他		123,924	昆布	37,600貫 7,366駄 4,973把 33,146丸	15,803
					396,925
			砂糖	700,100斤	68,330
			鹽	411,760俵 (1斗6升入)	56,445
			鐵	13,850束 (12貫入)	46,795
			銑	1,490束 (13貫500匁入)	2,349
			鋼	850箱 (13貫500匁入)	3,400
					52,544
			生蠟	2,886丸 2,800斤	35,845
			烙子皮	508,400貫	15,154
			其他		199,025
合計		473,231	合計		824,268

備考　「二府四縣采覽報文」31—34頁，241—246頁，264—269頁により作成す。
本表は純輸出入額についてみたものである。

明治15年福井縣輸出入品表（第41表）

品名	輸出	円	輸入	円	差引	円
米	100,829石	655,682	9,120石	62,300	＋ 91,709石	＋ 593,352
菜種	20,109石	171,152	581石	4,721	＋ 19,528石	＋ 166,431
種油	8,410樽	54,982	—	—	＋ 8,410樽	＋ 54,982
莚	185,781束	76,844	—	—	＋185,781束	＋ 76,844
蠟燭	4,785箱	37,272	—	—	＋ 4,785箱	＋ 37,272
茶	300,000斤	75,000	—	—	＋300,000斤	＋ 75,000
生糸	200梱	73,000	—	—	＋ 200梱	＋ 73,000
魚類	25,000箱	50,000	?	11,002	?	＋ 38,998
胴鍊	22,500貫	3,825	592,986束 29,256貫	190,076	−592,686束 − 5,756貫	− 186,251
身欠鍊	2,220本	6,800	24,310本	93,115	− 22,090本	− 86,315
鍊白子	23,000貫	6,600	12,035本 33,792貫	71,080	− 12,035本 − 10,792貫	− 64,480
鍊粕	3,200貫	576	520本 5,160貫	3,266	− 520本 − 1,960貫	− 2,690
數ノ子	5,000貫	1,200	1,042束 9,900貫	9,853	− 1,042束 − 4,900貫	− 2,653
昆布	10,180貫	1,214	2,000石 1,205駄 7,350把 19,370貫	12,954	− 2,000石 − 1,205駄 − 7,350束 − 9,190貫	− 11,740
		20,215		380,344		− 360,129
砂糖	4,500挺	64,000	14,880挺	186,400	− 10,300挺	− 122,400
鹽	—	—	455,866俵	100,420	−455,866俵	− 100,420
鐵	257束	1,263	6,504束	29,212	− 6,247束	− 27,949
鋼	—	—	2,000箱	12,000	− 2,000箱	− 12,000
銑	—	—	2,700個	6,143	− 2,700個	− 6,143
		1,263		47,355		− 46,092
蠟	—	—	5,097吋	91,401	− 5,097吋	− 91,401
楮子皮	—	—	30,000束 13,433貫	51,101	− 30,000束 − 13,433貫	− 51,100
綿	848本	10,999	6,417本	67,720	− 5,569本	− 56,721
太物	—	—	46,093反	22,789	− 46,093反	− 22,789
呉服	—	—	2,053反	7,913	− 2,053反	− 7,913
西洋反物	—	—	931反	5,600	− 931反	− 5,600
				36,302		− 36,202
石油			9,820函	40,562	− 9,820函	− 40,562
其他		5,316		70,506		− 65,190
合計		1,295,725		1,150,163		＋1,115,879 − 970,317

備考　「明治十五年福井縣統計書」66—67丁により作成す。

右表によれば最大の輸出品は米で、全純輸出額の二九%弱を占める。これに菜種（一六%）、種油（一二%）、莚（七%）、桐油（三%八）、蠟燭（三%六）、石灰（三%）等であつた。輸入品においては、鰊製品、鹽鱒、數ノ子、昆布等の北海道水産物が最大のもので、その輸入額は全體の四八%を占めておる。中でも胴鰊（一六%）、鹽鱒（一一%）、身欠鰊（九%六）、鰊白子（六%七）等が主要なものであつた。これにつぐのは砂糖（八%）、鹽（六%八）、鐵類（六%三）、生蠟（四%三）等であつた。

次に「明治十五年福井縣統計書」により右三港の輸出入品を整理合算すると第四一表の如くで、これによつても主要輸出入品は「采覽報文」による明治十一年の場合と大差なかつたことが知られる。たゞ、十五年になると、前記した主要輸出入品の外に輸出にあつては茶・生糸・魚類などが、輸入においては綿・呉服類・石油などが相當多量に輸出入されておる。

最後に米の輸出高が生産高に對しどの程度の割合を占めていたかを明治十五年についてみると次の如くである。

生産高	輸出高	百分比
四四八、〇三一石	一〇〇、八二九石	二二・五

備考　「明治十五年福井縣統計書」一一九、丁六六丁による。

三山陰區

鳥取縣

鳥取縣は明治十五年より縣として獨立し、それ以前は島根縣に屬していたが、便宜上ここでは獨立の縣として取扱

うことにする。

「二府四縣采覽報文」には鳥取縣としては明治十一年境港の輸出入額のみが示されておる。それによると輸出額 九一九、五六〇圓、輸入額 四五五、四七九圓であるが、これには米の再輸出額 二三八、五〇〇圓が含まれているので、それを控除すると輸出 六八一、〇六〇圓、輸入二一六、九七九圓となる。その內譯は第四二表のごとくである。

最大の輸出品は鐵類でその輸出額二十八萬六千圓余、全輸出額の四二%を占める。その外では木綿（二九%）、綿二八%）が主要なものであつた。輸入品では米（三〇%）を筆頭に、石

明治11年鳥取縣境港輸出入表（第42表）

輸出			輸入		
		円			円
鐵	32,000駄（1駄＝24貫）	208,000	米	14,000石	63,000
銑	12,000駄（1駄＝24貫）	36,000	石油	15,000箱	51,000
鋼	7,100駄（1駄＝24貫）	42,060	水油	8,000樽	40,000
			干鰯	50,000俵	20,000
			大豆	3,690石	14,821
		286,060	鰯	2,500個	10,000
綿	30,000本（1本＝6貫）	195,000	鹽	50,750俵	5,836
木綿	500,000反	200,000	小麥	2,300石	9,200
			小豆	670石	3,122
合計		631,061			216,979

備考　「二府四縣采覽報文」298—299頁により作成す。
本表は純輸出入額である。

明治16年鳥取縣輸出入表（第43表）

港名	輸出額	輸入額
	円	円
米子	313,356	130,669
境	248,955	88,977
其他三ケ所	41,972	12,331
合計	604,283	231,977

備考　「第四回統計年鑑」263頁による。

油（二三%）、水油（一九%）等が主要輸入品であつた。

「鳥取縣統計書」及び「島根縣統計書」にはこの種の調査を欠くが、「第四統計年鑑」には明治十六年の鳥取縣の輸出入額が示されておるので、參考までにそれを表示すると第四三表のごとくである。

島根縣

「二府四縣采覽報文」には今の島根縣（出雲・石見・隱岐）に屬する港の輸出入については全然記載がない。また島根縣統計書にもこの種の調査を欠いておる。たゞ「第二統計年鑑」には島根縣の輸出入として第四四表の如く記されておる。

これには後に鳥取縣に所屬する港もふくまれておるが、それにしても、島根縣輸出入の大略を知ることができよう。

（本研究は昭和二十六年度文部省科學研究費による研究の一部である）

明治13年島根縣輸出入表（第44表）

港名	輸出額	主要輸出品	輸入額	主要輸入品
	圓		圓	
濱田	86,831	鐵，苧	105,548	鹽，砂糖
境	553,592	米，木綿，銅	157,825	大豆，鰯，鰯粕
松江	29,420	古着，鹽	348,426	洋織物，呉服，藥種，砂糖
米子	156,299	—	48,316	—
安來	246,298	—	14,987	—
鄕田	113,736	—	6,750	—
其他二十ヶ所	306,867	—	206,049	—
合計	1,493,043	—	3,244,645	—

備考　「第二統計年鑑」202—203頁による。